



木次っ子の四季

～互いに互いの成長を喜び合う学校～

校長:伊藤彰彦



2学期には、様々な行事があります。木次っ子たちは、地域に出かけて学習を進めたり、作品展に向けて作品づくりを進めたりしています。6年生は陸上大会に向けての練習をがんばり、大会ではベストを尽くしました。

10月は特にいろいろと行事があり、子ども達は忙しい中にも充実した日々を過ごしています。

科学作品審査会

9月17日には雲南市科学作品審査会がありました。本校からは、代表7名の作品を出品しました。その他の科学作品も一生懸命に調べてまとめたものでした。木次っ子の科学作品はとてもよく頑張ったものでした。

本校の代表を紹介します。

氏名 (学年)	研究作品名	結果
松本劉馬さん (1年)	「かぶとむしは、どんなせいかつをしているのかな？」	入選
田浪 葵さん (3年)	「ふわふわのかき氷が食べたいよ」	特選 (県展出品)
陶山颯希さん (4年)	「紙の落ちる速度が一番おそいランキング」	特選
村尾和奏さん (5年)	「豆苗で『リボベジ』に挑戦！」	特選 (県展出品)
柴田侑武さん (6年)	「ホワイトボードに書いた字は野菜や果物の皮で消すことができるのだろうか？」	入選
小笹真輝さん (6年)	「浜辺に落ちているもの」	入選
梅実来莉さん (6年)	「Let's ろ過実験」	特選

代表で出品した皆さん、受賞おめでとうございます。

科学作品展に挑戦した皆さんは、身近なところの疑問から、予想をたてて実験をし、考察を行いました。どの作品もとてもアイデアに満ちていました。こうして筋道立てた考え方を経験することは、いろいろなものの見方をしていく必要があるときにきっと役に立ちます。

よくがんばりました。



田浪 葵さんの作品



村尾和奏さんの作品

地域に出かけることが多いこの頃です

校内写生会、雲南市内めぐりと県畜産センター見学（3年生）、中村鮮魚店様訪問（5年生）、槻之野神楽伝承館見学（2年生）など地域を舞台にした学習をたくさん行いました。感染対策を徹底して、見学に出かけています。見学先では、それぞれの地域の方、お店や企業の方たちに温かく迎えていただき、感謝しています。これが雲南のよさでもあると感じています。今後ともよろしく願いいたします。



校内写生会では、それぞれが希望する場所に行き、思い思いに写生に励みました。



3年生が、雲南市のいいところや珍しいところを探しに行きました。



おいしい焼きサバは木次の名物です。5年生は、その秘密にたどりつこうとたくさん学びました。



2年生は、見学の時に神楽に使う衣装や道具を実際に身につけさせてもらいました。伝統の重みを感じます。

ウォークラリーをしました。

10月11日の午前中は、あきば班ごとに木次の町中へウォークラリーに出かけました。例年の全校遠足に替え、コロナ禍の中でもできることを考え、工夫して行いました。

このウォークラリーは、ポイントが12か所あり、いくつ行っても構いません。そして、12のポイントではそれぞれにミッションがあり、それを班のみんなで達成してくるという、ゲームのような遠足です。

事前に6年生の班長さんがお世話をして、木次の町中で行ってみたいところを話し合いました。その話し合いをもとに各班が、木次の町の中を回って歩きました。1年生から6年生までがひとつの班ですので、協力しないとうまくいきません。どの班も声をかけあって、励ましあいながら楽しく歩きました。

学校に帰ってから、ふりかえりを行いました。どの班も、楽しかったことや助けてもらってうれしかったことを口々に話していました。



雲南市陸上大会に6年生が参加しました。

今年度は、10月に雲南市陸上大会が開催されました。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、大会自体が中止となりました。今年度は6年生のみの大会とし、人数を減らして開催しました。

種目も一部変わりました。トラック種目は、男女の100M走、男子1000M走、女子800M走、学校で男女各1チームの400Mリレーです。フィールド競技は、男女の走り幅跳び、そして、男女のジャベリックボール投げです。100M走と男子1000M走、女子800M走は、児童が希望する短距離走か長距離走のどちらかの種目に出場しました。幅跳び、ジャベリックボール投げ、リレーは代表が出場しました。

壮行式では、自己新記録を目指してほしいこと、仲間を応援したりされたりする中で、絆を深めてほしいこと、この行事でしか味わえないもの（緊張やドキドキ感など）を味わってほしいことなどを話しました。

当日は、それぞれが練習したことを精一杯表現していました。「緊張するー。」といって、スタート地点に向かった子の気持ち。競技を終えた時の温かい仲間からの拍手。男子のリレーが第2組で逆転して1位となった時の応援の盛り上がりで総合順位を聞いて全体では2位だった時の「あー。」という声が出た時の気持ち。陸上という競技を通して子ども達が得たものは多かったと思います。本

物を通してこそ、です。よい経験となった一日でした。



仲間にエールを送っています。

長距離走では、他校の選手にも拍手でエールを送っていました。



4×100M走の第2走から第3走へのバトンパスです。

見事なバトンパスです。この後、差を詰めていき、4走で逆転してゴールしました。

当日は、保護者の皆様に来場いただくことはできませんでしたが、夢ネットさんが取材をされていたので、夢ネットによる放送があると思います。そちらの方で、当日の様子をご覧になれるものと思いますので、どうぞご期待ください。

特別支援教育連載「かけはし」



地域に出かけての学習や、修学旅行や三瓶研修などを控え、子ども達は様々な形の学びに向かっています。それでは、その学びの場について前号に引き続き紹介します。

Q5 木次小学校ではどのような学びの場があるのですか？（特別支援学級による指導編）

A 少人数によるきめ細やかな指導が行われています。時間割は一人一人の教育的ニーズに応じて作成し、特別支援学級や通常の学級で授業が行われています。

木次小学校では、「7組」「8組」「9組」「10組」があり、一人一人の教育的ニーズに応じて、特別支援学級で学習したり、同学年と同じ場で一緒に学習したりしています。また、「通級指導教室」を設置している学校ですので、通級指導教室において一人一人のニーズに合った学習を週1時間程度行っています。